

委員会より

総務常任委員会

議員定数、維持が決まる！

8月26日に開催された総務常任委員会において、本定期（2023年の選挙での改選まで）は議員定数を10人のままとすることが採決されました。今年だけでも11回となる本委員会、3地区とオンライン開催の「議員と一緒に考える会」、議会だより号外発行とオンラインアンケートを経て審議し、採決に至りました。

議員定数、オンラインでも議論が深まる！

「議員と一緒に考える会」をオンラインで開催しましたので、号外に続いて紹介いたします。

8月3日（水）と8月20日（土）

の夜に日時を設定し、議員を除き、のべ14名の参加者が集まりました。

議員も新島・式根島・出張中の本土から参加しましたが、島出身の高校生や他島議員、ゲストの大学准教授も交えた質疑応答が行われ、オンラインならではの充実した意見交換になりました。会議中にいただいた声をいくつかご紹介します。（木村諭史）

議員の意思表明結果

- 維持5名：綾とおる、前田泉、前田寿夫、青沼弘、青沼喜六
- 削減4名：小久保利佳、前田卓秀、山本均、前田邦弘

同じ思いの人、子育て世代の人がなってくれて興味が湧いた。報酬にしる、やっていることにしろ、わからないままで聞いかけても難しく、このような場所を設けてくれると助かる。伝えることで自然に若い議員が増えてくるのでは？（40～50代の女性）

女性議員のなり手について、女性のほうが時間的余裕があるかもしれない。（30～40代の女性）

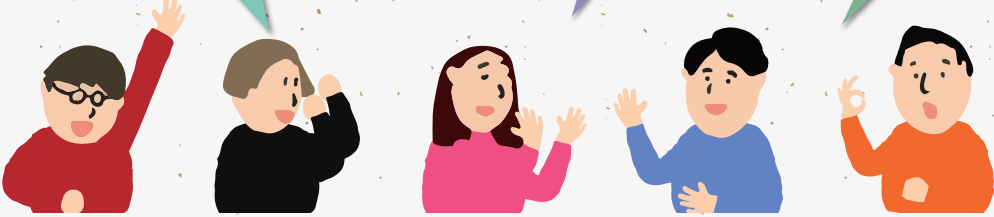
議員の数は拾い上げる手の数。声なき声があり、役場に直接は言えないこともある。（地域産業のベテラン）

能力があってやるということよりも、熱意。それが届かなかったから、議員になった。兼業でやりながら、自分の姿を例として周囲に示したい。（他島の若手議員）

先進的な取組（例えばDXや広報面）をしている議会だと思った。結論も大事だが、未来の主権者や住民らも交え、数々の話し合いのプロセスを大切に、その記録を残そうとする姿を見て長崎県小値賀町議会の姿を想起した。高校生が自治法の兼業規定の質問などをしていて驚いた。（榎澤幸広・名古屋学院大学准教授）

兼業でいろいろやっていけば、難しいとは考えないが、それができる人（若者）が少なくなるんだろうな。自分にならうかなと思ったときに、時間・能力がないなと思ってしまう。新しい人材を増やすには報酬が上がるのが大事。（20～30代の若者）

こういう機会を設けたことが短期的。議会の傍聴席から議員の思いを感じた。もう少し話しやすい会も欲しい。（議会傍聴をされる方）



将来に向けた意見交換は続きます！

委員会採決後も、「議員と一緒に考える会」は、有志による柔軟な形も含め継続していくことが合意されました。

また、新島高校3年生6名が、総合的な探究の時間『新島研究』で、議員定数の維持・削減を取り上げています。生徒らは当委員会が開いた情報を読み込んだうえ、10月28日に議員インタビューを行い、指名を受けた小久保・青沼弘・木村・前田邦弘の四議員が対応しました。11月4日には生徒自らが維持・削減に分かれて討論会を行い、さらに来年1月に向けて小論文をまとめています。